

令和6年度

全国学力・学習状況調査報告
(結果)

<小学校>

<中学校>

佐久市教育委員会

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和6（2024）年 10月7日

佐久市教育委員会

1 調査の概要

- (1) 調査日 令和6年 4月18日（木）
- (2) 調査対象 小学校6年生、中学校3年生、学校
- (3) 調査内容
 - ①児童生徒に対する調査（小学校6年・中学校3年）
 - ・教科に関する調査：国語、算数(数学)
 - ・学習意欲、学習環境等に関する調査（児童・生徒質問紙）
 - ②学校に対する調査（学校質問紙）

2 教科に関する調査

(1) 平均正答率

小学校	国語	全国と比べ、「ほぼ同じ」
	算数	「やや下回る」
中学校	国語	「ほぼ同じ」
	数学	「ほぼ同じ」

(2) 各教科の状況 [①正答分布状況・無答率 ②領域や観点から ③設問に対する状況等]

【小学校】

国語	①	全14問中0～9問正答の児童の割合は全国とほぼ同程度であるが、11～14問正答の児童の割合は低い。無答率は全国を下回っている。
	②	「読むこと」「書くこと」は全国とほぼ同程度であった。「話すこと・聞くこと」は全国を下回り、その開きが他の内容より大きかった。「言葉の特徴や使い方に関する事項」での「知識・技能」の正答率が全国をやや下回った。
	③	短答式設問の正答率は全国と比べて低かったが、記述式設問は全国をやや上回った。文の中で漢字（「競技」）を正しく書き直す正答率は37.3%（全国43.4%）と全設問中で最も低かった。
算数	①	全16問中0～9問正答の児童の割合は全国を上回り、10～16問正答する割合では全国を下回った。無答率は全国をやや上回った。
	②	「数と計算」「変化と関係」が全国と比べて下回り、特に「変化と関係」は、例年、児童が苦手とする傾向がみられる。両領域では、求め方や理由を式や言葉を用いて説明する「思考・判断・表現」で正答率が下回っている。
	③	短答式・記述式設問の正答率が低く、全国と比較しても開きが大きい。日常の授業で記述・説明するなどの活動を重視したい。一方、除数が小数である場合の除法など、知識・技能での課題もみられた。

【中学校】

国 語	①	全 15 問中 5～8 問正答の生徒の割合が全国を上回り、10～15 問正答の生徒の割合は低い。無答率は全国とほぼ同程度だった。
	②	「知識・技能」に関わる「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」が全国と比べやや下回った。「読むこと」が全国と同程度となり、「書くこと」とともに改善傾向がみられる。
	③	「思考・判断・表現」に関わる正答率は全国とほぼ同程度だったが、選択式・短答式設問に対して記述式設問を苦手とする傾向がみられた。記述式設問に限ってみると無答率はやや高い。
数 学	①	昨年度みられた 3 つの集団はやや緩やかになったが、全 16 問中 4 問以上正答の割合がやや右肩下がりに分布している。無答率は全国をやや上回った。
	②	「数と式」「関数」が全国とほぼ同程度の正答率となったが、「図形」「データの活用」は正答率が低かった。「データの活用」の箱ひげ図・四分位範囲では、「知識・技能」「思考・判断・表現」とも正答率が全国を下回った。
	③	設問形式別正答率の片寄りは見られない。「思考・判断・表現」に関わる記述式設問では、「数と式」で全国平均を上回ったが、「図形」の証明は下回った。式やグラフを用いて説明する「関数」の設問は、全国同様で最も正答率が低かった。

3 学習状況等に関する調査

【児童生徒に対する調査】(小学校 6 年児童及び中学校 3 年生徒への質問紙調査 抜粋) <質問番号>

(1) 「自分にはよいところがあると思いますか」「将来の夢や希望は持っていますか」 <9.11>

両質問に対して、小学校では「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的に回答する児童はともに 80%を超える。中学校では、「よいところがある」と回答する生徒 85.1% (昨年度 79%) に対して、「将来の夢や目標を持っている」生徒は 68.7% (同 65.5%) と差があるが、両質問とも昨年度より高い数値となっている。

(2) 「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」 <19>

肯定的回答は、小学校では「よくある」51.6%、「ときどきある」40.5%となり、中学校では「よくある」48.1%、「ときどきある」42.2%となり、いずれも全国と比較して若干高い。「あまりない」「全くない」と回答した児童生徒は小学校 7.9%、中学校 9.4%で、中学校では昨年度より 2.3%減少した。

(3) 「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学びを考え、工夫することはできていますか」「5年生まで(中学2年生のとき)に受けた授業では、問題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」 <20、30>

どちらの質問項目も小中学校ともに肯定的回答が 82～83%と高く、全国をやや上回る数値だった。小中学校ともに 70%台だった昨年度より数値としても上がっている。

(4) 「5年生まで(中学2年生のとき)に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」 <26>

肯定的回答は、小学校が 65%、中学校が 69%だった。一昨年度から小中学校ともに数値があがっ

ているが、特に中学校では12%上昇している。児童生徒の意識や授業そのものの変化も考えられる。発表に止まらず、視点を明確にした具体的な支援を大切にしたい。

- (5) 「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」 <33>

小中学校ともに肯定的回答が85%を超えており、友達との話し合いを通して学びを深めていくことを実感している子どもが多いと思われる。一昨年度以来、小中学校ともに数値をあげており、中学校では一昨年度より15%上昇している。

- (6) 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」 <38>

肯定的回答が小学校72.7%（全国81.3%）、中学校81.3%（同82.2%）であり、総合的な学習の時間で願う学習活動が意識されていると思われる。学校体制としても内容や活動の充実を図ってきたい。

【学校に対する調査】（各小中学校への質問紙調査 抜粋）

<質問番号>

- (1) 「昨年度に、教員が授業で問題（学級の問題）を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか」 <9、10>

授業では「週に1回程度、またはそれ以上」「月に数回程度行った」学校は、小学校92%（全国78.9%）、中学校57.2%（同64.7%）だった。学級の問題では「週に1回程度、またはそれ以上」「月に数回程度行った」学校は、小学校100%（全国87.5%）、中学校85.7%（同77.3%）だった。授業・生活の両者を大切にしつつ、学級集団づくりなどの頻度が高いことがうかがえる。

- (2) 「調査学年の児童（生徒）は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか」 <25>

肯定的な回答は小学校では100.0%（昨年度85.7%）、中学校では85.7%（100%）だった。今年度は中学校1校を除いた市内全小中学校で、課題解決に向けた子どもたちの主体的な姿を評価している。子どもたちの取組とともに、教師の指導としても大切にされていると思われる。

- (3) 「調査学年の児童（生徒）は、授業において、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか」 <26>

「そう思う」は小学校7.1%、中学校14.3%だが、「どちらかといえば、そう思う」を合わせた肯定的回答は、小学校85.7%（全国78.3%）、中学校57.2%（同82.7%）だった。県と全国は同様の傾向にある。子どもたちが自信をもって発言、発表できるようさらに指導を重ねたい。

- (4) 「調査学年の児童（生徒）に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか」 <36>

「よくしている」「どちらかといえば、している」は、小学校100%（全国91.9%）、中学校57.2%（同90.9%）だった。小学校では探究の過程を意識した総合的な学習が全ての学校で行われている一方で、中学校では半数を超える程度であった。【児童生徒による調査】と重ねてみたい。

- (5) 「調査学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか」 <34>

「よく行った」「どちらかといえば、行った」は、小学校78.5%（昨年度64.2%）、中学校71.4%（同100%）だった。「よく行った」との回答は、市内小中学校各1校だった。探究的な学びに向けて、校内研修・研究など継続的に進めていきたい。

4 改善の方向

各校、学力にかかわる課題は異なるので、ここでは今回の調査問題や調査項目にみられる市全体の傾向から改善の方向を記す。各校においては、昨年度実施している CRT 検査からの考察と重ね合わせ、自校や児童生徒にみられる課題を明確にしたい。

く ①今回の設問にかかわって ②③教科指導全体にかかわって 〉

- (1) 【国語】 小学校、中学校とも「思考力・判断力・表現力」に関わる、「話すこと・聞くこと」に共通した課題がみられた。自分の考えが伝わるように表現を工夫して話したり（小・中学校）、目的や意図に応じたり話し合いの話題や展開を捉えたりしながら自分の考えを伝えることを大切にしたい。そこで、

- ① 「話すこと・聞くこと」では、目的や意図に応じて聞き手が知りたいことを想定して、話す際の材料や活用する資料などをもとに内容を検討することができたかという視点をもたせたり、話題や展開を捉えながら自分や他者の発言を結び付けて考えをまとめたりするなどしたい。「書くこと」にかかわっては、自分の考えが伝わるように、事実と感想、意見とを区別して書く、書き手の意図と読み手の受け止め方がかみ合っているか確かめるなどの点にも留意して指導したい。
- ② 「読むこと」では、説明的な文章や文学的な文章などの文章の種類を調和的に取り扱う。物語では人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、「どのように描かれているか」という表現の効果を考えたりしたい。また、説明的文章では中心となる部分とそれを支える付加的な部分、事実と意見などの構成を考えたり文章全体を要約したりするなどの学習を大事にしたい。
- ③ 読解力は国語に限らず全ての教科において基盤となる。学習の中で読んだり書いたりする活動を読書や辞書の活用などにつなげたりして語彙を豊かにしたり、読んだ文章を要約する活動などを意図的に取り入れたりして読解力を高めたい。

- (2) 【算数・数学】 小学校では「数と計算」で基礎的な知識・技能に不十分さがみられた。また、小学校では「変化と関係」で道のりと速さ、時間の関係についての考察や、中学校では「関数」「図形」で数学的に、筋道立てて説明・証明することに課題がみられた。

「データの活用」では箱ひげ図の扱いを大切にしたい。（中学校）そこで、

- ① 道のり・速さ・時間は日常生活で出会う問題でもある。道のりと時間が比例関係にあることに着目して、速さなど単位量当たりの大きさの意味や表し方について理解を図ることを大切にしたい。（小学校）「関数」では表や式とグラフの特徴を関連付けた理解を図り、それらを用いて問題解決の方法を説明する活動の充実を図りたい。また、図形の移動の考察では、コンピュータなどを活用して動く様子を観察する活動を取り入れながら、証明の方針を立て、仮説から結論を導く推論の過程を数学的に表現する活動を大事にしたい。（中学校）
- ② 小中学校ともに「データの活用」が大事に位置付けられており、中学校では昨年度に続いて箱ひげ図、四分位数が扱われている。日常生活や社会の事象を、目的に応じて必要なデータを収集・整理して表やグラフに表したり、データの特徴や傾向を適切に読み取って考察・判断したりして数学的な表現を用いて説明できることが大切になる。
- ③ 日常生活にみられる数学的な事象と関わらせた教材化を図り、問題解決の方法を表、式、グラフなどを用いて数学的に説明したり表現したりする活動を日常的に取り入れて充実を図りたい。

(3) 【学校生活、教科学習など全体として】

- ① 自己肯定感や夢・希望をもっている子ども、また「幸せな気持ちになること」がある子どもの割合は比較的高い。学校生活においてもその子らしさや多様な考えが尊重され、子どもが安心して自己を表現しながら学ぶことができる人間関係、学級集団づくりを進める。
- ② 「自分で考え」「自分から進んで」学ぶこと、友と協働的に学ぶことのよさを感じ取っている子どもの割合が増加している。個別最適な学び、ICT 機器の有効活用などを通して、さらに子ども主体の学びを支えたい。
- ③ 総合的な学習の時間において、各校で探究の過程を意識した授業が広がってきている。授業実践を重ねるとともに、各教科においても探究的な学びを大事にしていきたい。また、学習の中では日常的に自分の考えを文章にして書き表したり伝え合ったりする学習を位置付け、思考・判断・表現する力の育成を図る。
- ④ 子どもに向き合う教師の意識や教材研究の深さが子どもの考えを柔軟に受け入れ、子どもの主体的な活動を促し、学びの質を高める。子ども理解、素材研究、教材化の研究など教師自身の主体的研修とともに、日常的に学び合う教師集団づくりに努めたい。
- ⑤ 子どもの健やかな育成は学ぶ意欲と大きくかかわる。学校、教師だけでなく、家庭や地域との連携を図りながら、安心感や安定感のある生活、豊かな体験や社会参加を支えていきたい。

(4) 今後の学力向上・授業改善に向けて

- ① 各校では、研究主任等を中心に自校の結果を分析し、課題解決に向けた取組を明確にする。
- ② 校長会で、自校の実践例や案を持ち寄り、学力向上・授業改善の具体を協議する。
- ③ 小中学校研究主任会を通じた学校間連携を図り、情報交換、授業改善を進める。
- ④ 自校の分析と今後の取組について、学校だよりなどを通して保護者に示し、理解と協力を得る。